



TITLE:

霊長類などの寒冷適応に関する研究(VI 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

CITATION:

霊長類などの寒冷適応に関する研究(VI 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 2001, 31: 173-173

ISSUE DATE:

2001-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165567>

RIGHT:

(5) 平成 12 年度で終了した計画研究

霊長類などの寒冷適応に関する研究

(実施年度：平成 10 年～12 年度)

(推進者：片山一道・川本 芳・相見 満・渡邊邦夫・毛利俊雄)

本研究課題では、霊長類などの動物種が本来の生活環境を離れて、特異な生活環境に拡散したとき、あるいは生活を余儀なくされたとき、いかなる適応戦略を探るのか。ひとつには寒冷適応の問題に焦点を当て、形態、生理、生態、行動などの変化の実態、その要因と機構を解明していくことを目的とした。平成 10 年度から 12 年度までの 3 年計画として実施したが、平成 10 年度は 3 件、平成 11 年度は 2 件、平成 12 年度は 2 件の研究が採択された。日本の縄文時代の遺跡で発掘されたニホンザル骨の変異に関する研究、ネズミ類などの生理機構の攪乱に関する研究、ニホンザルの積雪条件での行動調節の研究、遊動域の標高の違いによるヤクザルの群間変異の研究、さらにはミトコンドリア DNA を使ったニホンザルの分子系統地理学的研究など、非常に多岐にわたる研究テーマで個々の研究が実施された。本研究計画の開始年度の平成 10 年 5 月 14～15 日には霊長類研究所において、「霊長類などの寒冷適応に関する研究」のテーマで研究会を開催し、さまざまな角度から問題の所在を問うために研究の戦略を検討した。さらに中間年度と最終年度には、それぞれ第 29 回と第 30 回ホミニゼーション研究会に相乗りするかたちで、本計画関連の研究成果の一部が報告され、活発な討論がなされた。

本研究計画で行われた研究題目と研究者は以下のとおりである。

(平成 10 年度)

- ・ 日本列島遺跡出土のサルの形態学的研究
松井 章 (奈良国立文化財研・埋文センター)
- ・ 小型哺乳類の寒冷適応に関する研究
大石 正・Malgorzata Jefimov・益田敦子 (奈良女子大・理)
- ・ 黒部川流域に生息するニホンザル自然群の積雪期・非積雪期の群間関係
赤座久明 (富山県立雄峰高校)・加藤 満 (愛知県立旭野高校)

(平成 11 年度)

- ・ 屋久島上部域におけるニホンザルの生態学的研究
半谷吾郎 (京都大・理)
- ・ 動物考古学から見たニホンザルの分布と形質について
松井 章 (奈良国立文化財研・埋文センター)

(平成 12 年度)

- ・ 屋久島上部域におけるニホンザルの生態学的研究
半谷吾郎 (京都大・理)
- ・ ミトコンドリア DNA の D グループ可変領域におけるニホンザルの分子系統地理学的研究
吾妻 健 (高知医科大)

(文責：片山一道)